

【オモチャ攻め】拘束された私の玩具地獄
～「イれて」とねだるまで、じらされる快楽支配～

サンプル（一部抜粋）

（カチャカチャと響く金属音）

「...ああ、目が覚めましたか？」

（抵抗するような手錠や足枷の音）

「...暴れても無駄ですよ。
簡単に取れるモノではないので。」

「...誰？って...僕の事を覚えていないんですか。」

「数時間前に、あなたがバーで僕に絡んできたでしょう？」

「（クスクス笑う）一度でいいから、イってみたい...でしたっけ？
酔って僕に懇願したじゃありませんか。」

「暴れても無駄ですよ。だって...イきたかったんでしょう？
僕はあなたが望むものを与えてあげるのに...どうして抵抗しようとするのか、理解ができませんね。」

「それとも...イきたいって僕にすぎた数時間前のあなたは嘘だったんですか？」

「.....嘘ではないけど...って....
じゃあいいじゃないですか。」

「（安心させるような優しい声で）...大丈夫。気持ちいいですから。」

（クリトリスにあてる）

「...あれ、呼吸が浅くなりましたね。
まだ『弱』なのに。
吸い付かれて、変な感じでしょう？」

「...はは。イきたい...と？
へえ...。それで？」

（ローターをクリトリスに当てたり、離したりじらす）
（じらされて泣きそうになっている相手の耳元に、わざと意地悪く声を落とす）

「...なんて？」

「声が小さくて聞こえませんか。なんて言ったんですか？」